

透析患者の骨密度が生命予後に与える影響の検討について

研究の目的

骨密度の低下や骨折は生命予後を悪化させることが知られていますが、透析患者での報告はまだあまり多くありません。特に骨密度については報告により測定部位が異なっており、どの部位の骨密度が有用であるのかの検討がなされていません。当院では2009年に透析患者さんの骨密度と骨折既往との関連を検討しました。橈骨、大腿骨近位部、腰椎の骨密度を測定しています。これらのデータを用いて骨密度と生命予後との関連を検討して学会発表および論文での発表をおこなう予定です。

研究に用いるデータ

2009年に当院で透析をうけておられた患者様の骨密度、骨折既往、年齢、透析歴、採血データを使用させていただきます。

個人情報管理

データは病院内で解析し、匿名化された結果を発表することになります。個人情報が漏えいすることはありません。

データ提供による利益・不利益

本研究にデータを使用させていただくことによる患者様の利益・不利益は発生しません。

研究結果の発表

学会発表や論文による発表を予定していますが、患者様が特定されるような内容は含まれません。

データ使用の取り止め

研究にご自身のデータが使用されることに同意されない場合は、いつでも下記責任者にその旨を教えてください。いつでも取り止めは可能です。取り止めをしても何ら不利益を受けることはありません。

研究責任者
甲南医療センター 腎臓内科
部長 藤森 明